

現代型人類拡散の「南回りルート」における地理的多様性 Regional variability on the 'Southern Route' of modern human dispersal into Eurasia

野口 淳^{1*}, 下岡 順直², カシード・H・マッラー³, グーラム・M・ヴィーサル³, ニローファー・シェイフ³, 近藤 英夫⁴
Atsushi Noguchi^{1*}, Yorinao Shitaoka², MALLAH, Qasid H.³, VEESAR, Ghulam M.³, SHAIKH, Nilofer³, KONDO, Hideo⁴

¹ 明治大学校地内遺跡調査団, ² 京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設, ³ シャー・アブドゥル・ラティーフ大学考古学研究室, ⁴ 東海大学文学部

¹Meiji University Archaeological Investigation Unit, ²Kyoto University Institute for Geothermal Sciences, ³Shah Abdul Latif University, Department of Archaeology, ⁴Tokai University, School of Letters

およそ15万年前にアフリカに出現した現代型人類のユーラシアへの進出ルートについては、遺伝人類学の成果にもとづきアフリカ東部からアラビア半島南部を經由して南アジアへ至る「南回りルート」が有力視されている (Petraglia et al. 2010)。出アフリカの時期と回数については複数の仮説があるが、該当する12万年前以降、4万年前までの間 (MIS5~3) の考古遺跡の発掘調査はここ十年の間に急速に進み、アラビア半島とインド各地で複数の石器群が知られるようになった。主要なものは1) アラビア半島南部に分布しアフリカ東部~北部と共通するヌビアン石器群 (10万年前: Rose et al. 2011)、2) アラビア半島南部で1に後続するレプトリシック石器群 (4~0.8万年前: Hilbert et al. 2012)、3) アラビア半島南~東部に分布する類ルヴァロア石器群 (FAY-NE B および A 石器群, ~3万年前: Armitage et al. 2011; Shi 'bat Dihya 1, 5.5万年前: Delagnes et al. 2012)、4) イラン南西部のロスタミアン細石器石器群 (4.1~3.5万年前: Conard and Ghasidian 2011)、5) 南アジア各地のモード3石器群 (9?~4万年前: Petraglia et al. 2007, 2012)、6) パキスタン~インド中・西部のスクレイパー類の卓越する石器群 (16R 砂丘など, 4~2.6万年: Misra 1995)、7) インド中・南部~スリランカの細石器石器群 (3.6万年前~: Perare et al. 2011)。しかしながら、確実な化石人骨の証拠は4万年前以降のスリランカ、インド南部において細石器石器群に共伴するものしか得られていない。同細石器石器群には、背付き石器、石およびダチョウ卵殻製ビーズ、幾何形線刻を有する赤土、骨角器など、アフリカにおいて現代人的行動の特徴とされる考古遺物も伴っており、確実な現代型人類の所産である。しかしその年代の上限は今のところ3.6万年前 (AMS: calBP) であり、東南アジアやオセアニアで知られている現代型人類の化石証拠、考古資料よりも若干新しい。またイラン南西部のロスタミアン石器群を除くと、南アジアに至る経路上に4万年前まで遡る細石器石器群が見つかっていない。あらためて、現在までに知られている各地の石器群を年代ごとに整理すると、乾燥/湿潤、砂漠/森林という異なる古環境に、細石器および非細石器石器群がモザイク状に分布していることが確認される。現代型人類は、出アフリカを果たす以前にすでに多様な生態環境に適応していたと考えられることから、アラビア~南アジアにおける細石器/非細石器石器群のモザイク状の分布は、異なる人類集団の共時分布を示すのではなく、現代型人類による多様な生態環境への適応の表現型の違いであると理解することが可能である。報告者らは、現在、上記の観点にもとづきパキスタン・シンド州のヴィーサル・ヴァレー遺跡群の調査を進めている (野口ほか 2012)。同遺跡群はタール砂漠西縁の三日月形砂丘列群の中に位置し、発掘調査により、砂丘形成過程における埋没地表面と関連すると考えられる層序より中期~後期旧石器時代に帰属すると考えられる石器群が出土している。遺跡群の年代、古環境、地形発達史に関するデータは、「南回りルート」における現代型人類の進出と適応戦略に関する新知見をもたらすものとして期待される。

キーワード: 出アフリカ2, 南回りルート, 中期・後期旧石器時代, 石器群のモザイク状分布, 生態環境, 適応戦略

Keywords: Out of Africa 2, Southern route, Middle/ Upper Palaeolithic, Patchy distribution of lithic industries, Ecological niches, Adaptive strategy